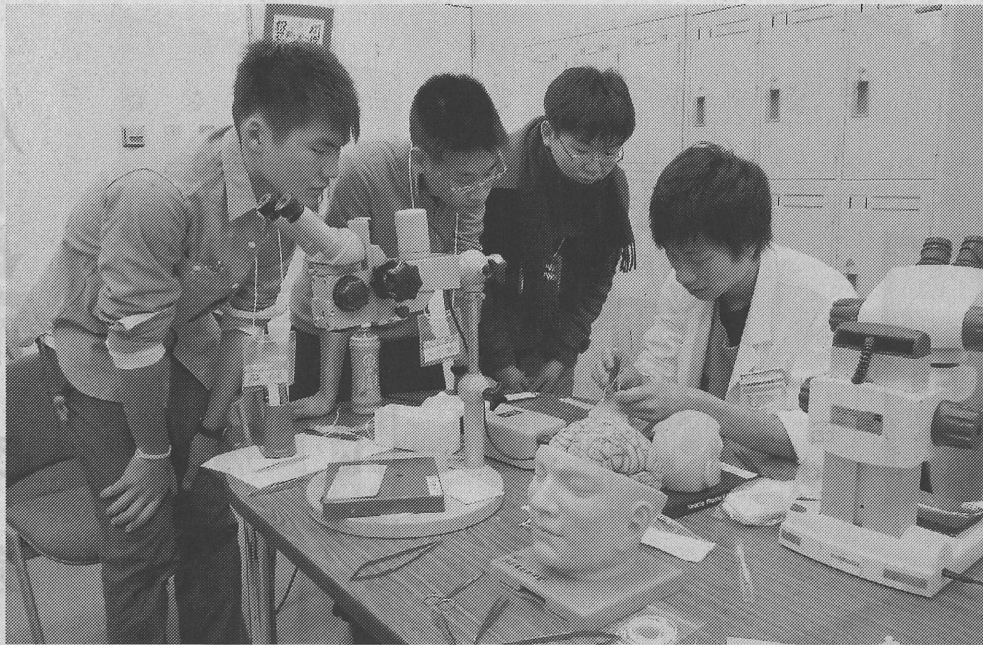


命と健康守る意義



医師からマイクロサージャリーの指導を受ける生徒たち

府立病院で 高校生350人学ぶ 医療模擬体験

・住吉区

住吉区

丁目の府立急性期・総合医療センター（吉岡敏治院長）で5日、高校1・2年生が医師や看護師、薬剤師などになったつもりで手術や調剤、看護などの模擬体験をするイベント「ふれあい病院探検隊」が行われた。約350人の高校生が参加し、人々の命や健康を守る病院の意義と大切さを学んだ。

病院の多職種にわたる高度な業務を実際に医師や看護師らの指導を受けながら模擬体験してもらい、医療職を目指す若者を増やそうと企画・実施した。

体験イベントは「血管内治療体験」（心臓内科）、「君もマイクロサージャリーに挑

戦」（脳神経外科）、「肺の中を覗いてみよう」（呼吸器内科）、「心臓マッサージ体験」（救急診療科ほか）、「ナースのお仕事体験」（看護部）など35メニュー。

ほかにもセンターと連携している大学の「ベジ（野菜）博士認定コーナー」（相愛大学）、「はり・きゅう施術体験」（森ノ宮医療大学）などフリー参加できるイベントメニューも用意した。

顕微鏡を見ながら非常に細かい部位の外科手術を行うマイクロサージャリーの体験コーナーでは、生徒たちが手術のトレーニングで実際に使用される顕微鏡を使って脳血管吻合（かんごう）シミュレーションに挑戦。清風学園高2年の岩井星磨君は「糸が最後まで結べたので感動した。将来小児科の医師になりたい」と夢を膨らませていた。

（大山勝男）